

# 災害ボランティアコーディネータとの静岡大学での地震防災教育の実践

## Action of the Education on Mitigation of Earthquake Disasters with Non-Academic Members in Shizuoka University

# 里村 幹夫[1]

# Mikio Satomura[1]

[1] 静岡大・理・生物地球環境

[1] Fac. of Science, Shizuoka Univ.

静岡大学では、20年以上前から東海地震の発生を想定し、それに備えるために、耐震工事を含めさまざまな地震防災対策を行ってきた。しかし、学生に対する地震防災教育は、ガイダンス時の指導と毎年1回の防災訓練を除くと、必ずしも十分ではなかった。当初から被災時の学生の災害ボランティア活動は重要であるとの議論はあるにはあったが、それを推進するための教育はとくにはなされていなかった。

その状態が長く続いたが、2001年に静岡大学の地震防災対策を見なおすために作られたワーキンググループにおいて、学生の災害ボランティア育成の必要性が強く打ち出され、学生を含めたパネルディスカッションの開催を経て、ワーキンググループの答申にボランティア育成の指針が示された。その指針の1つが、近隣地区の自治会や災害コーディネータとの連携であった。そこで、大学側も外部の人たちとの接触を積極的に持ち、大学教職員、学生、地元自治会、災害コーディネータの有志からなる静岡大学総合<防災><ボランティア>ネットワークが作られた。そしてこの総合<防災><ボランティア>ネットワークの提案のもと、2002年秋には地域住民や災害コーディネータを含めた学外の人達と連携して静岡大学の体育館への泊り込みを含む防災訓練がなされた。

2003年4月には、静岡大学総合<防災><ボランティア>ネットワークが中心となって新入生対象の防災訓練を実施し、そこに参加した学生有志を中心として静岡大学学生防災ネットワークが作られた。その後、この学生達の自主的な計画を大学が支援する形で、2003年9月に朝霧でサバイバルキャンプ、2004年1月に地元住民と合同の災害ボランティアセンター立ち上げや避難所体験等の防災訓練、4月に新入生対象の防災訓練をおこない、6月にはこれらの活動の拠点となる静岡大学防災・ボランティアセンターが設置された。

また、2004年4月からは、全学共通の総合科目の中に「地震防災」科目を開講した。地震防災に関する大学の講義というと、一般には、理学や工学、医学といった理科系の内容が中心になるが、行政、経済、歴史といった文科系とされる内容を積極的に取り入れ、さらには災害ボランティア活動を実践している方にも講師陣に加わっていただいた。学生の評判はよく、希望者が多くて抽選で受講生を絞らないといけなくらい人気がある。また、講義に対する学生アンケートの結果も上々で、とくに大学人以外の方の講義への評価が高い。

また、2004年10月の中越地震発生の後、現地への学生災害支援ボランティアを募集したところ、募集期間が1週間にも満たなかったが70名もの応募者が集まるなど、このような教育、活動が実りつつある。